

令和7年度 総務常任委員会行政視察報告書

1 参加委員

(委員長) 藤村 優佳理 (副委員長) 滝口 友美

(委員) 金田 俊信 (委員) 岸 正明 (委員) 水島 誠司 (委員) 桁木 太郎

2 観察日時

令和7年10月9日 (木曜日) 午前11時00分から午前12時00分

3 観察先

大阪府寝屋川市

4 観察事項

(1) 人材確保に向けた取り組みについて

(2) 働きやすさを追求した取り組みについて

5 観察概要

| | (担当 水島誠司) |
|---------|---|
| 観察先選定理由 | 公務員のメンタル、職場環境の影響で退職や長期休暇に繋がるケースが増えていく。本市でも無関係ではなく、茅ヶ崎市の職員一人ひとりが意欲と安心感をもって業務に取り組める職場環境を整える事は今後の人材確保に向け欠かせない課題となっている。現在施行中ではあるが職場環境の改善に取り組む先進事例を本市でも活かすため寝屋川市を選定した。 |
| 内 容 | 寝屋川市出席者 寝屋川市総務部人事室 上之園室長兼課長 総務部人事室 尾崎係長 大阪府内でも競争が激しくなっている職員の採用について優秀な人材の確保に向け取り組みを始めた。特に一般採用では面接重視としてコミュニケーション能力、課題に対し前向きに分析と対策の対応ができ新たな価値を創造できる人など人間力を持つ人材の確保に取り組んでいる。 また、退職した職員について再度、復職できる再チャレンジ制度や公務員の新しい働き方の実現として完全フレックスタイム制度、昇任資格取得制度など全国初の取り組みも実施し優秀な人材の確保に取り組んでいる。 |

| | |
|-----|---|
| |  |
| 考 察 | <p>今後、市職員の採用については全国で取り合いになる事が予想される。</p> <p>選ばれる職場として取り組み、1人でも多く優秀な人材を獲得しようと取り組まれていることが伝わった。働き方では常識内での服装の自由、完全フレックスタイム制度の中で、週休3日も可能になる柔軟な働き方を試みており職員のライフスタイルの変化やモチベーションアップにも繋がると考える。</p> <p>復職できる再チャレンジ制度を設け、退職後も復帰できる事で職場では即戦力となる可能性や人事異動などで選択肢も増えることが考えられる。</p> <p>茅ヶ崎市として職員のモチベーションアップに繋がる働き方の改革は必要と考えるが、ハラスメント、職場の環境など入庁から浅い職員側の意見もしっかりと聞く必要があると考える。</p> |
| 備 考 | |

